

角田市 角田市立横倉小学校 「ふるさと角田学(縄文土器づくり)」

- 市町名 角田市
- 学校名 角田市立横倉小学校
- 期 日 令和5年9月4日(月)
- 内 容

総合的な学習の時間(6学年)

「ふるさと角田学(縄文土器づくり)」

- ・縄文時代の歴史を知り、縄文土器の作り方を学ぶ。
- ・学校は横倉自治センターと連携し、横倉地区の文化財や地元に伝わる食文化などを活かした多様な体験学習を「ふるさと角田学」として実施している。

○講師

角田市郷土資料館 調査員 阿部 直希 氏

○指導補助

角田市郷土資料館 副主幹 我妻 一宏 氏
横倉自治センター 職員



○児童の声

- ・ぼくは、縄文土器を初めて作りました。縄文土器を作るときには、まず、土器の底を作りました。1.5cmくらいの厚さの円(底)を作るのですが、簡単そうに見えて、すごく難しかったです。次に、粘土でひもを作り、どんどん底から積み上げていきます。積み上げるときも、形を整えながら行う作業が大変でした。最後に、文様をつけました。文様は、縄やくしなどを使ってつけました。大変だったけど、うまく土器を作ることができて良かったです。

(6年 高橋 光栄さん)



- ・土器作りで楽しかったことは、土器の形を粘土で作ったことです。土器を作るときに、粘土でひもを作り、一段一段積み重ねていきながら作るということを初めて知りました。工夫したところは、土器にひびが入らないように、表面をきれいにしながら作ったことです。焼いたときに割れないように、土器(粘土)の中に空気が入らないように作ることに気を配りました。土器には、自分の好きな模様を入れることができました。初めて作った土器が、上手にできて良かったです。(6年 佐藤 清美さん)

- ・土器作りでは、初めて知ることがたくさんありました。1つ目は、土器の種類です。深鉢形、鉢形、台付形、壺形、注口の5つの代表的な形があることが分かりました。2つ目は、文様の種類です。縄やくし、貝殻などを使って文様を付けることが分かりました。ぼくも自分で作った土器に、角田市郷土資料館の方が持って来てくれた様々な道具を使って文様を付けました。文様を付けるときには、土器が壊れないように、ゆっくり押しながら付けました。楽しかったです。(6年 菊地 雪斗さん)

- ・土器作りでは、たくさんのお話を学ぶことができました。1つ目は、土器の種類です。5種類以上あり、とても驚きました。土器は、煮炊きをする鍋や、食べ物を入れて置く食器としても使われていたりすることを知ることができました。2つ目は、土器の作り方です。角田市郷

土資料館の方に説明していただいた後に、実際に土器作りをしました。まず、土器の底を作り、次に粘土ひもを積み重ねながら作ることが分かりました。3つ目は、文様の付け方です。昔の人たちは、縄や木の枝を使って文様を付けていたことを知り、驚きました。

(6年 佐藤 陽菜さん)

- ・ふるさと角田学「土器作り」では、縄文時代の話や土器の利用方法について、角田市郷土資料館の方に説明していただきました。縄文土器は、食べ物を「煮る」ことに利用し、当時の人々の食生活を豊かにしたことが分かりました。土器作りでは、土器の底を作ることに苦戦しました。土器を支えるための大事な底なので、厚くて丈夫な底を作るために、時間をかけて作りました。いろいろな人が手伝ってくれて、うまく土器を作ることができました。

(6年 八島 大翔さん)



○講師から

平成16年から毎年、初秋の頃に横倉小学校、横倉自治センターが主体となり、ふるさと教室の事業の一環として縄文土器作りを横倉小学校の6年生の皆さんに体験していただいています。土器作りの指導を務めて3年目ですが、毎年子供たちの作る土器の特徴が変わり、その年のクラス内の雰囲気をあらわしているように感じます。

土器作り作業に入る前に縄文時代と土器について簡単に説明した後、土器の作り方や作る際の注意点などを説明し、土器作りを始めます。

空気が入らないように注意して粘土をこねた

り、丁寧に円形の底の部分を作っていたり、土器作りが早々に終わり土器の表面に縄や竹串などを使い模様を付けるところまで進むなどいろいろな子供たちがいましたが、真剣な顔はみんな一緒です。土器作りはなかなか骨が折れる作業ですが、一生懸命に土器を作っている様子が印象的でした。

ふるさと教室の縄文土器作り自体は20年近く続いていて、慣行となっています。縄文時代に思いを馳せ、縄文人たちの生活感を少しでも感じて土器作りをしてもらえればと思います。

(阿部 直希 氏)

○教職員の声

子供たちは、今回の「土器作り」を通して、机上で学ぶだけでなく、実際に土器を見たり作ったりするという体験から、より多くの学びを得ることができました。児童からも、土器の大きさ、文様のデザインや凹凸、色合いなどを実際に見て知ることができてよかったという感想がありました。土器を作る中で、始めは簡単に作ることができると思っていた子供たちですが、実際に作るとなると大変な作業に驚いた様子でした。野焼きで割れない丈夫な土器を作るために、粘土の厚みを工夫したり、様々な道具から選んで文様を付けたり、こだわりが詰まった最高の土器を完成することができたようです。

「ふるさと角田学」は、角田市郷土資料館、横倉自治センターの方々の御協力により、様々な活動を行っています。今回の「土器作り」の他に、「横倉の古墳群について」「勾玉作り」「火起こし」「野焼き(土器)」など多くの学習する機会をいただいています。子供たちの学びのために、御準備や御支援いただき、心から感謝申し上げます。

(6学年担任 小松 美穂 先生)

○教育事務所から

横倉自治センターを中心に様々な人とつながりながら体験的に学ぶふるさとの魅力。地域の良さを十分に感じ取ることができる取組でした。